



園だより

9月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和6年9月2日発行



ツミとの夏物語

園長 佐藤 淳穂

台風10号の接近で天気予報から目が離せない新学期のスタートとなりました。暑い夏休みでしたが、ご家庭ではどのように過ごされたでしょうか。本園では、夏休みの初日にツミ（タカの仲間）が巣立っていきました。今号では2か月にわたって園庭で過ごしたツミの家族のことを書こうと思います。

5月のある日、おびただしい数のカラスが園舎の屋上や団地の手すりに留まっていました。園児の安全をおびやかされては大変と心配していると、カラスが攻撃している鳥がいることがわかりました。これがツミでした。標的にされているツミはカラスよりも一回り小型ですが、園庭の右から斜めから猛スピードで一直線に飛び、カラスを翻弄させていました。カラスが集団でここまで立ち向かうのは、ツミが生態系の上に存在する猛禽類で、カラスが我が子を守ろうと警戒したからだと思います。

それから何日かが過ぎた頃、園庭のどんぐりの木に巣を作って座っている鳥がいることに気がきました。子どもたちも保護者の皆さんも「しっぽが見えた!」「くちばしかな」とどんぐりの木を見上げる日々が始まりました。見え隠れする尾羽の模様がツミのようです。抱卵しているのですが、巣が高いところにあってよく見えません。そこで、お世話になっているカメラマンに屋上から望遠レンズで撮影してもらうことにしました。

カメラが枝の隙間に捉えた写真には、真っ白でふわふわのヒナ3羽が映っていました。ツミがどんぐりの木を巣作りに選んだことで、辺りのカラスたちが大慌てをしていたということになります。巣にヒナがいることがわかると、子どもたちのアンテナがピンと立ちました。「羽根が落ちている」「こっちにも」と白くて柔らかい小さな羽毛を拾ってきたのです。それからは、赤ちゃんの羽毛探しが楽しい遊びになりました。上ばかり見ていた私はこの感性に感心しました。



ひと月も立つと、拾ってくる羽根が大きくなってきました。そのうちにスズメの体の一部なども落ちるようになりました。親鳥が頻繁に餌を運んでくるのです。親は決まったビルのアンテナに留まっているのですが、「あれ、いない」と誰かが気付くとすぐに餌を持って巣に飛び込んできました。ツミの動きは速くて目で追うことは容易ではありませんが、Aさんは「先生、来たよ!」といつも教えてくれました。興味をもった子どもの観察力は計り知れません。

7月になると、3匹のヒナは巣から出て遊ぶようになりました。「フィーフィー」という鳴き声を頼りに大きくなっていくツミを探すことが私たちの楽しみでした。木から地面に降りてきた時は大騒ぎでした。年長組は思い思いにツミを絵に描いたのですが、ふさふさに生え変わっていく羽根やタカ特有の鋭い爪が描かれていました。ツミは終業式の日もどんぐりの木で元気に鳴いていました。ツミの親子にもぎやかな園庭が気に入っていたのかもしれません。巣立ったツミは南へ渡り、越冬するそうです。私たちの暮らす街にも野生の世界があることを感じることでできた日々でした。2学期も心動く出会いを楽しみにしたいと思います。